

「主体的な学び」推進委員会通信

第1号

令和7(2025)年5月1日



小郡市教育委員会

令和7年度小郡市「主体的学び」推進委員会第1回の開催にあたって

小郡市教育長 秋永

特に昨年度(令和6年度)は、社会の変化が求める「新たな学び」づくりに各学校が積極的に取り組んでいただいたことにまずは感謝申し上げます。例えば、県「情報活用能力育成事業」指定校(味坂小・大原中)の三年次報告会での発表内容は、県教育委員会義務教育課HPで広く県内に公開されています。また、県重点課題「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実による学習指導」研究指定校(三國小)中間報告会での授業実践は、自己選択・自己決定を軸にした取組が高く評価され、その成果を本年度県教育センターでの研修講座や11月の最終報告会で披露する予定となっています。同じく県重点課題「STEM教育」研究指定校(味坂小)の研究実践は、2月に開催された九州教育情報化セミナー(於:中村学園大学)で発表報告の機会をいただき、広く九州各県の先生方と研究成果を共有することができました。それぞれの授業実践をつくり上げていく過程では、これまで、市ICT教育推進委員会及び学力向上推進委員会の推進委員を務めていただいた各先生方のご尽力・ご支援が大きくあったものと思っています。本当にありがとうございました。

さて、本年度より、二つの推進委員会を統合し「主体的な学び」推進委員会と名称を改め、一体的に推進することといたしました。その意図は、デジタル環境を基盤に、さまざまな実態・特性のある子どもたち一人一人に個別最適に寄り添うことを通して真に「子ども主体の魅力ある学び」を実現することをめざしたいということにあります。

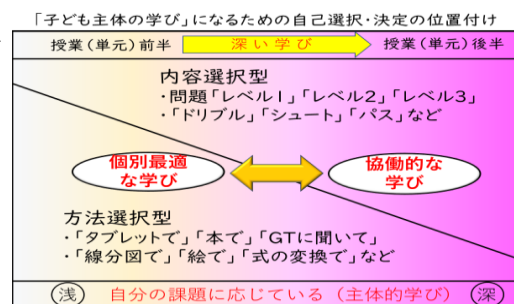
令和7年度における各学校での創造的で踏み込んだ授業改善の取組に期待をいたします。

「主体的な学び」推進委員会 委員長 三國小学校 和田 喜幸 校長先生より

本年度は、「学力向上推進委員会」と「ICT教育推進委員会」が統一され、新たに「『主体的な学び』推進委員会」が発足いたしました。つまり、ICTを特別取り上げて、授業改善していくのではなく、「子ども主体の学び」の授業を行っていく上で、子ども自らが主体的にICTを効果的に活用していくように授業改善を図るということです。

さて、「子ども主体の学び」の授業にするためには、自己選択・決定する場面を設定する(個別最適な学び)ことが大切になってきます。しかし、ただ、自己選択・決定すれば、「子ども主体の学び」になるかというとそうではありません。大事になってくるのが、「自分の課題に応じた選択・決定になっているか」です。なぜかという、選択しても、見通しをもって自分で学習を進めることができなかつたり、自分の学びにつながらなかつたりするからです。そこで、選択する内容をしっかりと吟味する必要があります。一つは、「方法選択型(解決方法や調べる方法など)」か「内容選択型(問題内容や活動内容など)」にするかです。二つは、1単位時間(単元)の前半・後半のどちらに位置付けるかです。右図のように、「内容選択型」にしたり、授業(単元)の後半にしたりすることで、より自分の課題に応じた選択決定になり、子ども主体の学びにつながると考えます。しかし、方法選択型や授業(単元)の前半に位置付けたとしても、「協働的な学び」を「個別最適な学び」と一体的に位置付けることによって、「深い学び」や「子ども主体の学び」につながります。この「主体的な学び」推進委員会を通じて、小郡市全体で「子ども主体の学び」の実現ができればと思います。

三國小学校 校長 和田 喜幸



「子ども主体の学び」
動画資料



情報活用能力育成事業授業動画

【味坂小】

【大原中】

文部科学省「1人1台端末で学校が変わる」

【ダイジェスト】

【小学校】

【中学校】

事前アンケートより、「主体的な学び」の推進について

「子ども主体の学び」の授業イメージ

- 子どもが自分事の学習課題をもっていること。子どもが自分の得意や取り組み易さに応じて方法を選択・決定していること。
- 子どもが問いを見出し、問いを自分ごとにしながら、解決への見通しをもち、粘り強く取り組む姿。
- 子どもが自分で課題を立て、方法と形態を自己選択、自己決定し、モニタリングとコントロールの調整を繰り返しながら問題解決をしていき、振り返りにて学びの成果と課題、改善策を子ども自身が行う学習。

「自分事の課題意識」、「課題解決への見通し」、「方法や内容の自己選択・自己決定」、「自己の学びの振り返り」などのキーワードが多く挙がりました。

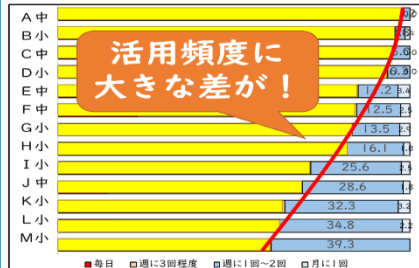
「子ども主体の学び」を学校全体で推進していくために、必要なこと

- 学ぶ意欲を高める課題の準備、生徒主体で活動するための最低限のルールづくり、生徒を信じて生徒に任せる心(勇気)。
- 個人で解決している生徒と、協働しながら解決している生徒が同じ空間にいることへの理解を進める。
- 子どもに委ねるために、学習規律や学級の支持的風土づくりなどの基盤づくりを大切にしたい。
- 「子ども主体」という点について、各職員や各教科でのイメージをまずは出し合うことから始めたい。その上で、全教科で共通して取り組めることと、各教科の特性を活かした取組の両輪が必要である。

「教員の意識転換」、「校内研修」「全職員の共通理解」が重要との意見が多く出ました。

小郡市の課題と令和7年度の方向性

Q.授業では、どのくらい使っていますか？(児童生徒回答)

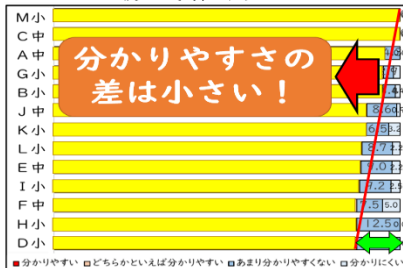


活用頻度に
大きな差が！

週3回以上活用で並べ替え

令和6年度ICT評価アンケート結果より

Q.タブレットを使った学習は、分かりやすいですか？



分かりやすさの
差は小さい！

肯定意見で並べ替え

令和7年度教育DX推進ロードマップより

「個別最適」に学び深める～自分で選び、自分で決める～
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実による
『子ども主体の学び』の実現

学習ログを活用した自己調整
(毎時による振り返り・単元毎による振り返り等)

発達段階に応じたタイピングスキル
操作スキル向上の取組

学力向上担当

ICT教育担当

『主体的な学び』推進委員会

令和6年度ICT評価アンケートの結果より、小郡市全体の活用頻度は随分と向上していましたが、学校別に見てみると、学校間では、大きな差があります。また、「タブレットを使った学習は、分かりやすいですか？」という質問を学校別に見てみると、どの学校の児童生徒も肯定的な意見が多くなっています。つまり、タブレットを活用している学校の児童生徒も、あまり活用できていない学校の児童生徒もタブレットを使った方が分かりやすいと感じていることが分かります。

これからは、教師主導で一斉に使わせるのではなく、発達段階に応じて、子どもが学習に関して使いたい時に自由に使える環境を整え、分からないときに直ぐに調べたり、既習事項を振り返ったり、家庭でもう一度復習し、分からないことを調べたりできることが大切です。

「子ども主体の学び」を実現に向け、研究主任とICT担当の協議

「子ども主体の学び」を実現するために校内研究の側面と、ICT教育推進の側面からどのようなアプローチができるか、参加者で協議を行いました。各校、自校の実態から、タイピング等の基本操作スキルの向上、学習ログの位置付け・整理のための学校としての体制づくりが必要なことを改めて確認しました。

小郡市が目指す、「『個別最適』に学び深める～自分で選び、自分で決める～」子ども主体の学びを、一部の教師や、学級、教科毎に進めるのではなく、学校全体で組織的に推進していくために、学力担当とICT担当が協議を深める大変意義深い時間となりました。



↑【協議の様子】



【協議シートアクセスコード】→

参加した先生からの感想（ポートフォリオより一部抜粋）

- 実態として、授業力向上、ICT活用の教師間の格差の課題があります。自己調整学習を通して、教師が今まで以上に教材研究に励み、子どもの実態や内容に応じて委ねられるところを探っていきます。
- 生徒は自分自身で学びを調整し、自分のペースで学習することを望んでおり、そこにICTを取り入れることで、学習意欲の向上や授業内容の理解の深まりにつながる事が再確認できた。
- 研究主任と「主体的な学び」について交流する機会が、日々の業務の中ではなかなかとることができないので、とても良い時間となりました。教員の一番の仕事は、授業だと思うので、常により授業をつくっていくことが、一番の使命だと思っています。